

マルチビゲンゴロウ

Leiodytes frontalis Sharp
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

近年全国的に減少傾向にある。神奈川県では絶滅種。本県でも注視が必要である。

種の特徴

体長 1.5 ～ 2.0 mm。体型は短卵型で強く膨隆し、特に腹側で顕著。背面は黄赤褐色で強い光沢があり、不明瞭な暗色紋がある。詳しい生態は不明。

分 布

本州～九州に分布する。県内では坂井市、三国町で記録があった。今回の調査では、坂井市と若狭町で生息が確認された。

生息を脅かす要因

護岸工事や湿地開発、農薬や水質汚濁、侵略的外来種の影響等が減少の要因となる。県内の生息状況の把握、周辺環境を視野に入れた生息環境の保全が望まれる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○		○				

コウベツブゲンゴロウ

Laccophilus kobensis Sharp
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査で新たな生息地が確認された。しかし、全国的に産地は局地的で、大都市近郊では近年みられなくなった産地もあることから、本県でも今後注視が必要であると判断した。

種の特徴

体長 3.4 ～ 3.8 mm。体形は逆卵形。背面は緑がかった黄褐色で、上翅には黒色の不明瞭な縦条模様がある。上翅は基部が濃色でその後方に浅いV字状の淡色の横帯がある。低地の池沼、湿地、放棄水田等に生息するが、詳しい生態は不明である。

分 布

本州～九州、南西諸島に分布。県内では坂井市三国町安島と大野市六呂師高原で記録があった。今回、越前町、勝山市で確認され、坂井市三国町内でも新産地が見つかった。

生息を脅かす要因

県内の産地は水生植物の豊かな溜池で、坂井市三国町の生息地を除いて外来種も侵入していない。しかし、農薬の影響や溜池の護岸等の開発があると本種の生息にとって脅威となる。坂井市三国町の生息地ではアメリカザリガニ等外来種の影響も懸念される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、環境省 (2015)、森・北山 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○				○				○	○	

シャープツブゲンゴロウ

Laccophilus sharpi Régimbart
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

もともと稀な種ではなかったが、1990年代以降、本州～九州で急速に確認例が減少したとされる。本県でも今回の調査では確認できておらず、調査の継続により生息状況の把握が必要である。

種の特徴

体長 3.5 ～ 4.2 mm。体形は逆卵形でやや細長い。背面は淡黄褐色～黄褐色で、やや弱い光沢がある。上翅ははっきりした暗褐色の波状の縦条模様があるが、後部では消失する。湿地、放棄水田、池沼、開けた明るい浅い湿地環境を好む。詳しい生態は不明。

分 布

北海道～九州、南西諸島に分布。県内では1996年に敦賀市中池見で記録があるのみである。

生息を脅かす要因

以前生息していた中池見湿地でも今回確認できなかった。アメリカザリガニの侵入による水生植物の減少や水質悪化の影響が心配される。また、湿地における遷移の進行による草地化も懸念される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、環境省 (2015)、森・北山 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											